

現代に通じる 「天岩戸隠れと天岩戸開き」

日本自治集団熊野飛鳥むすびの里 代表

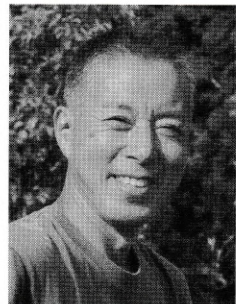
荒谷 卓

我が思いだけにふけり果たすべき公の使命を全く為さぬ須佐之男命は、伊弉諾大神様から根の国に追放され、天照大神への挨拶と称して高天原に向かいます。その様子が驚天動地の非常事態と思召した天照大神は荒御魂を発露され、猛々しく身構えて待ち受け「何の目的で来たのか」と問い質します。その御稜威にさすがの須佐之男命も神妙に「お暇、いに来ただけで邪心はありません」と答えました。それが本心かどうかを確かめるため「うけひ」をしますが、それを二柱の神の勝負ととらえた須佐之男命は、自分が勝つたとして高天原で好き勝手な振舞いをして平和な秩序を乱します。天照大神は自らが許したことによって生じた有様を忌避し、天岩戸にお隠れになります。

歴史は、日本神話を教訓とすべきことが繰り返して起こります。世界に自分勝手な秩序（グローバリゼーション）を押し付け、自分が正当だと主張してやりたい放題をしてきたアングロサクソン（英米）に対し、その非を正そうと、人類の共存共栄を目的とする八紘為宇を掲げて大東亜戦争を戦った日本は、皇道発揚を実践しました。しかし、昭和天皇は戦況を憂い戦争を終結し、戦争に勝つたと自負する米国にやむを得ず戦後日本を委ねます。その結果、米国防ローバリストに好き勝手なふるまいを許し、日本はグローバリゼーションの毒気に包まれてしまいました。これが現在の「天岩戸隠れ」です。さて、ではその解決策としての「天岩戸開き」は如何にして行われたのでしょうか。八百万の神々が天安河原に集い、心を一つに議論を重ね、段取りと夫々の神の御役を決め、一致団結して天岩戸を開き天照大神を引き出すことに成功します。我々は、祖先である八百万の神々の知恵と経験に学び、グローバリゼーションの邪気に飲み込まれた日本を正せるはずです。今は、まさにその好機です。アングロサクソン（英米）が近代以降築いてきたグローバリ化は不可逆的な後退の兆しを見せました。戦後日本を縛ってきた米国防とグローバリゼーションの軛が自から消滅します。

今、日本国民が緊急に為すべきは、家・地域社会・国家レベルで早急に対米依存体制から脱却し、自立性と主体性を高めることです。身近なところから、日本人としての主体性と自立性を取り戻して行動すれば、戦後体制という岩戸を押し開き、君民一体の国体を再興できます。人に頼らずデータラメな情報に惑わされず、一人の日本人として、「我行かん」の気概を持って決断と行動をしましょう。自らが日本人として生きることを！

あらや たかし



昭和34年生まれ。秋田県大館市出身。東京理科大学卒業後、陸上自衛隊に幹部候補生として入隊。特殊作戦群初代群長などを歴任し平成20年退職（1等陸佐）。その後、明治神宮武道場至誠館館長を務め、平成30年、三重県熊野市飛鳥町に「国際共生創成協会熊野飛鳥むすびの里」を設立、令和4年、全国の団体及び会社等を経営する同志と共に「日本自治集団」を結成、代表に就任。著書に『サムライ精神を復活せよ！ 宇宙の屋根の下に生きる社会を創る』『日本の大義と武士道 戦う者たちへ』など多数。新刊に『日本の特殊部隊をつくった二人の異端自衛官』がある。